



# 2010年度 決算説明会

2011年度は「改革'11」の総決算  
～高分子の下支えと繊維の立て直しで、営業利益19%増を目指す～



2011年 5月17日

代表取締役社長 安江健治

**ユニチカ株式会社**

## 第1部 決算説明

### 1. ユニチカの事業の特徴

- ・グループ事業構成
- ・セグメント別業績の推移
- ・主要セグメントの事業内容

### 2. 中期計画「改革‘11」の進捗

- ・2010年度状況と2011年度予想
- ・構造改革と成長戦略等の進捗と事業の状況

### 3. 各事業セグメントの状況

- ・2010年度状況と2011年度予想

### 4. 今後の方向性

## 第2部 ナイロンフィルムのグローバル戦略（設備増設計画）

## 第1部 決算説明

### 1. ユニチカの事業の特徴

- ・グループ事業構成
- ・セグメント別業績の推移
- ・主要セグメントの事業内容

### 2. 中期計画「改革‘11」の進捗

- ・2010年度状況と2011年度予想
- ・構造改革と成長戦略等の進捗と事業の状況

### 3. 各事業セグメントの状況

- ・2010年度状況と2011年度予想

### 4. 今後の方向性

## 第2部 ナイロンフィルムのグローバル戦略（設備増設計画）

# グループ事業構成

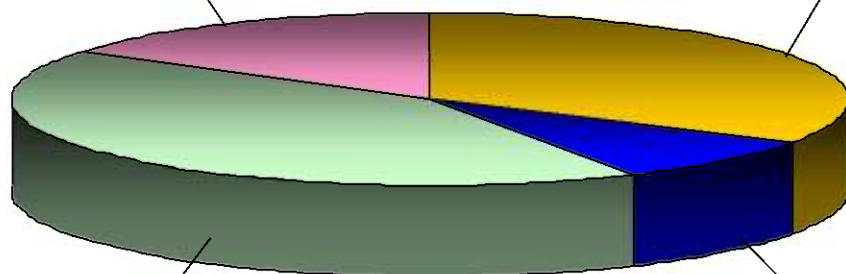
## その他事業（売上高構成比12%）

- ◆生活健康 医用材料  
健康補助食品 等
- ◆不動産関連
- ◆環境 水処理・廃棄物処理
- ◆その他 設備技術  
情報システム 等

## 高分子事業（売上高構成比37%）

- ◆フィルム ナイロンフィルム  
ポリエステルフィルム
- ◆樹脂 ナイロン樹脂  
ポリエステル樹脂  
ポリアリレート樹脂
- ◆不織布 ポリエステルспанボンド  
綿спанレース

連結売上高  
1,807億円



※売上構成比は2010年度実績

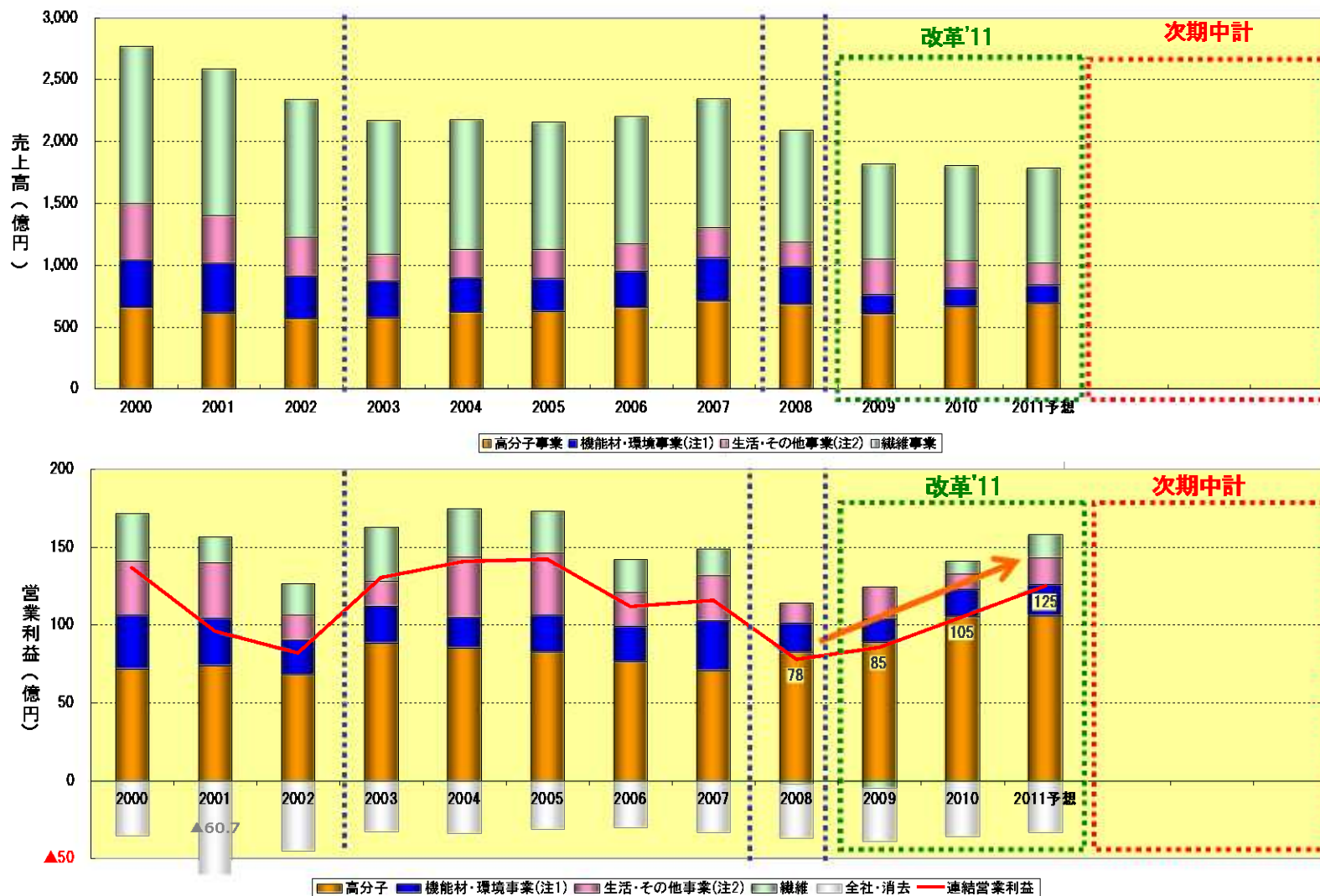
## 繊維事業（売上高構成比43%）

- ◆産業繊維 ポリエステル高強力糸  
ポリエステル短繊維  
ビニロン繊維 等
- ◆衣料繊維 ユニフォーム  
一般・婦人衣料素材  
スポーツ衣料素材 等

## 機能材事業（売上高構成比8%）

- ◆ガラス繊維
- ◆ICクロス
- ◆ガラスビーズ
- ◆活性炭繊維

# セグメント別業績の推移

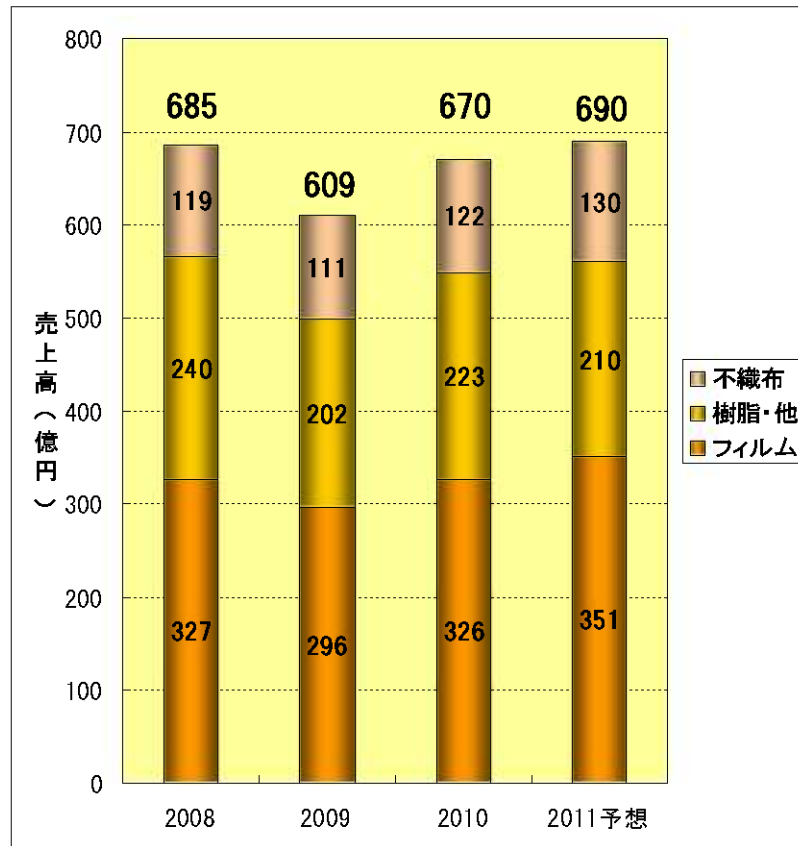


## グループの主力事業

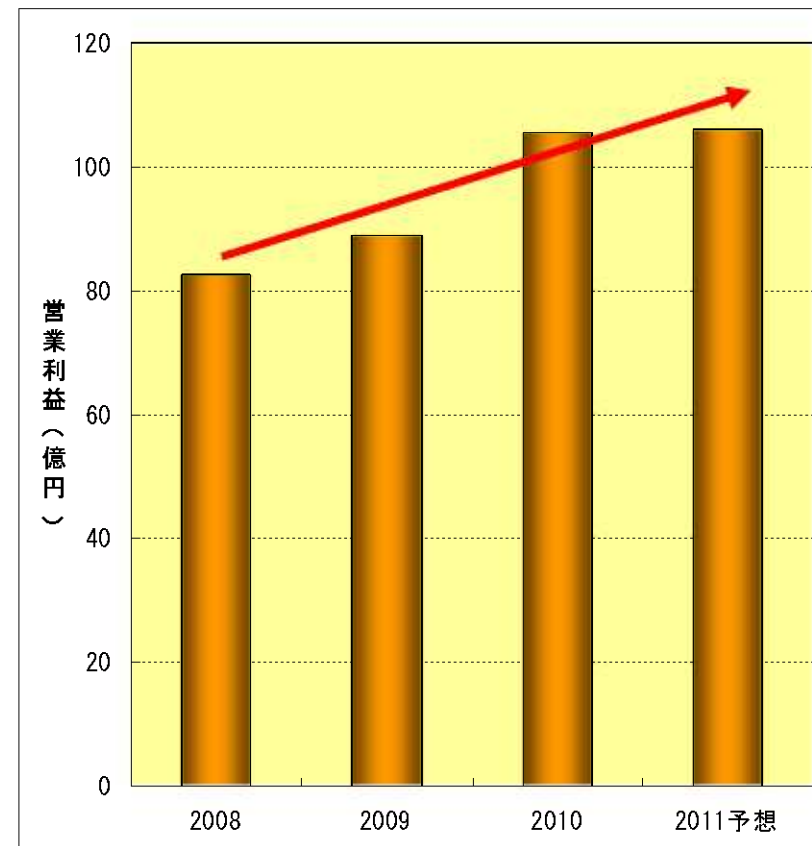
	フィルム	樹脂	不織布
主要 製品	<p>食品包装用</p>  <p>工業用</p> 	<p>自動車 部品用</p>  <p>精密機器用</p> 	<p>カーマット基布 農業用被覆材</p>  <p>生活雑貨</p> 
	<p>◇ナイロンフィルム ◇ポリエステルフィルム</p>	<p>◇ナイロン樹脂 ◇ポリエステル樹脂 ◇ポリアリレート樹脂</p>	<p>◇ポリエステルスパンボンド ◇綿スパンレース</p>

## 主力事業; 順調な収益拡大が続く

【高分子事業売上高】



【高分子事業営業利益】





## ガラス関連、活性炭繊維など特徴のある無機系素材の販売

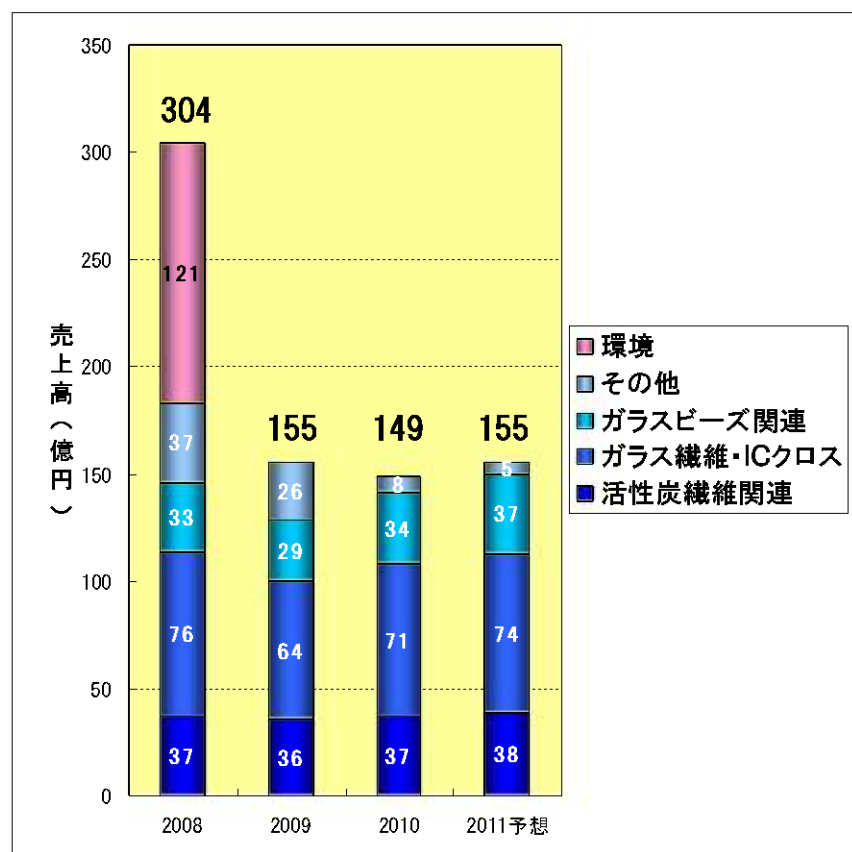
	ガラス繊維	ICクロス	ガラスビーズ	活性炭繊維
主要 製品	 車両電照カバー	 プリント基板用ICクロス	 ロードマーキング用 ガラスビーズ	 活性炭繊維フィルター
	 産業用ガラスクロス			



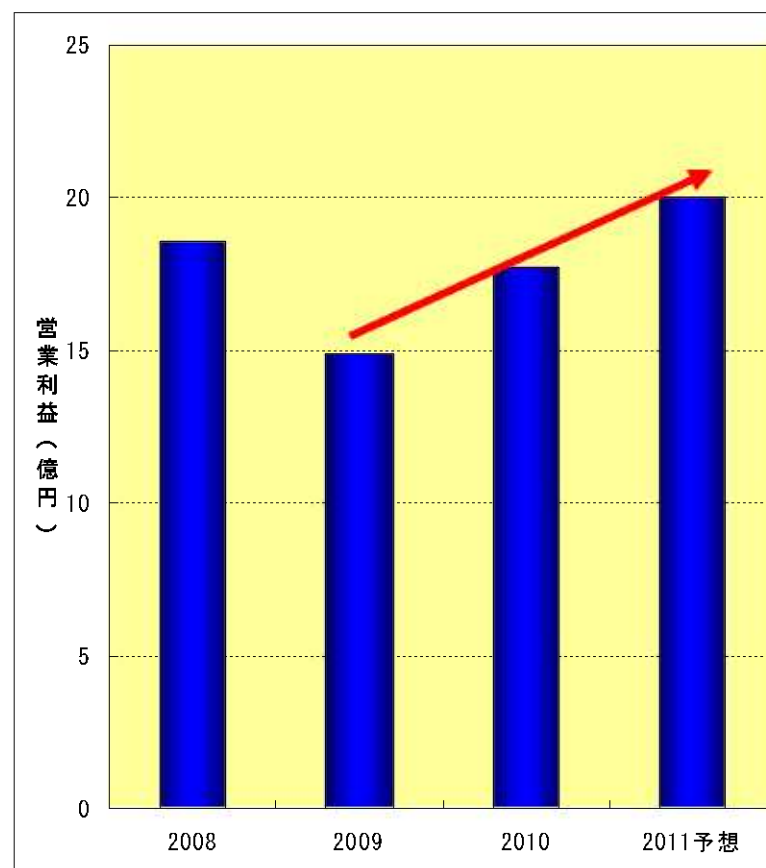
# 機能材事業の概要

## ユニークな商材で収益を拡大中

【機能材事業売上高】



【機能材事業営業利益】



2008年は旧セグメント(環境・機能材事業)の実績値

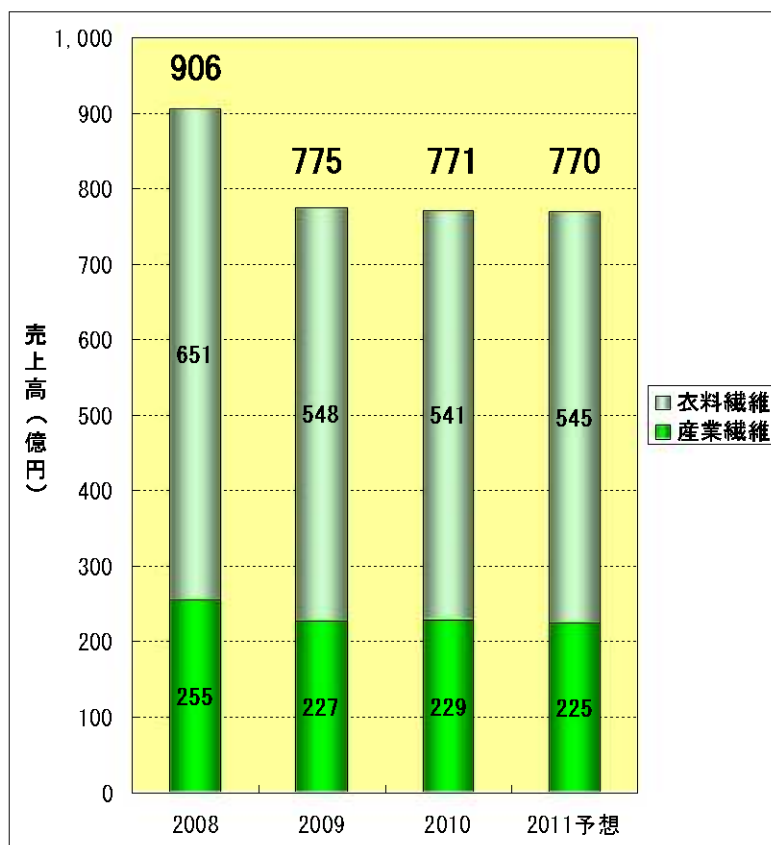
## 事業構造改善を推進中

	産業繊維	衣料繊維
主要製品	 <p>産業資材用 ポリエステル 繊維</p>  <p>ビニロン繊維 (セメント補強用途)</p>	 <p>ユニフォーム</p>  <p>スポーツ衣料</p>  <p>婦人衣料</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ポリエステル高強力糸</li> <li>◇ポリエステル短繊維</li> <li>◇ビニロン繊維</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ユニフォーム</li> <li>◇一般・婦人衣料素材</li> <li>◇スポーツ衣料素材</li> </ul> <p>など</p>

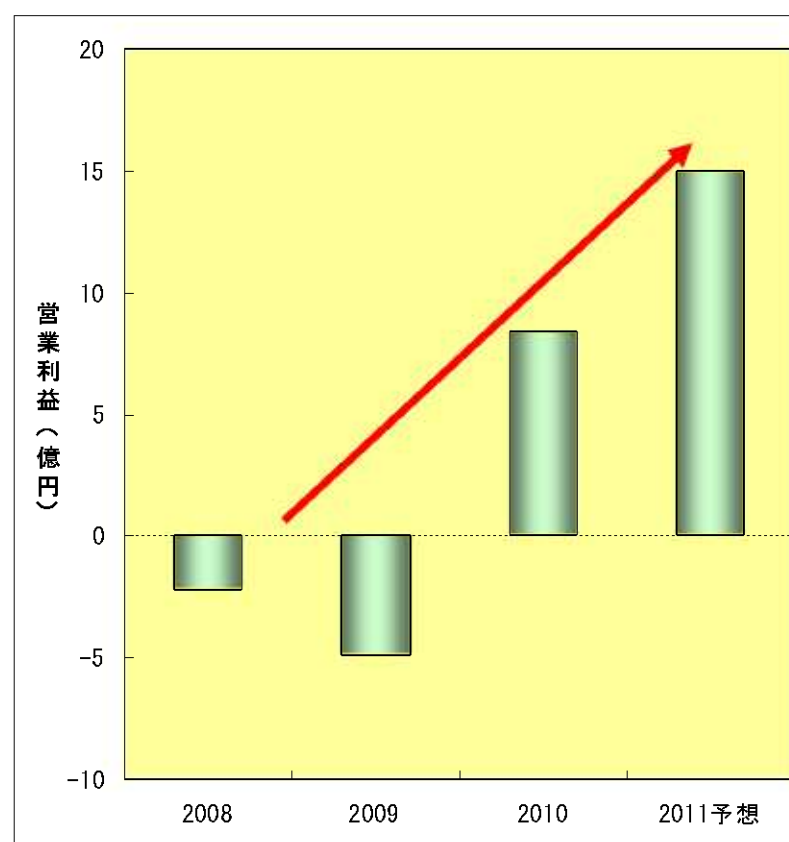
# 繊維事業の概要

## 構造改善により黒字化へ

【繊維事業売上高】



【繊維事業営業利益】



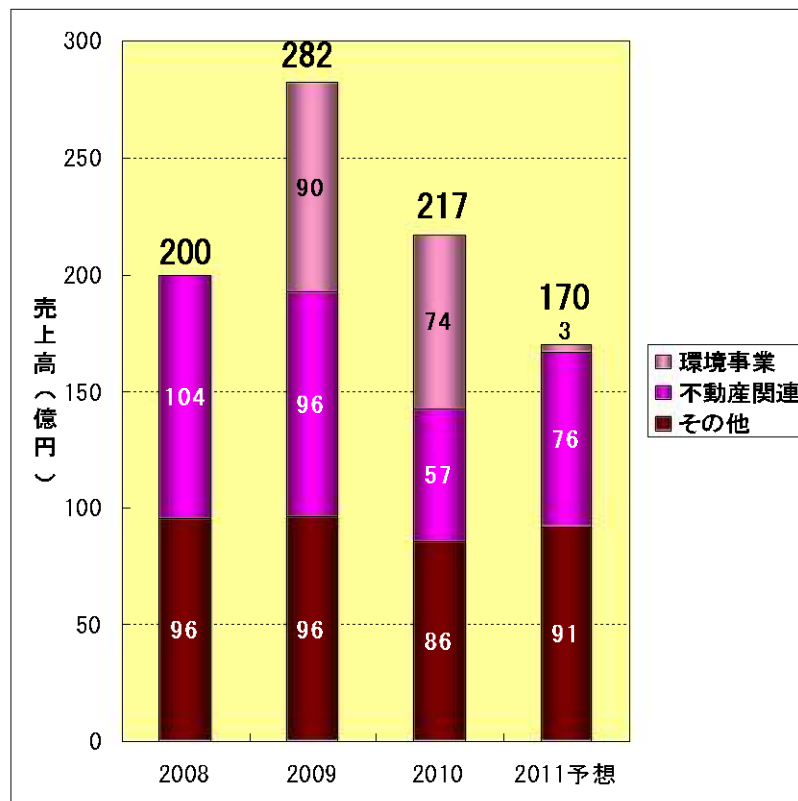
## 食品機能素材・カテーテル等の販売を強化中

	生活健康	不動産関連	その他
主要製品	 <p>抗血栓性カテーテル</p>  <p>創傷被覆保護材 ベスキチン</p>  <p>健康補助食品</p>	 <p>ユニハイム</p>	 <p>ヒーティングシステム</p>  <p>ソフトウェア設計</p>
	◇医用材料 ◇健康補助食品	など	◇設備技術 ◇情報システム

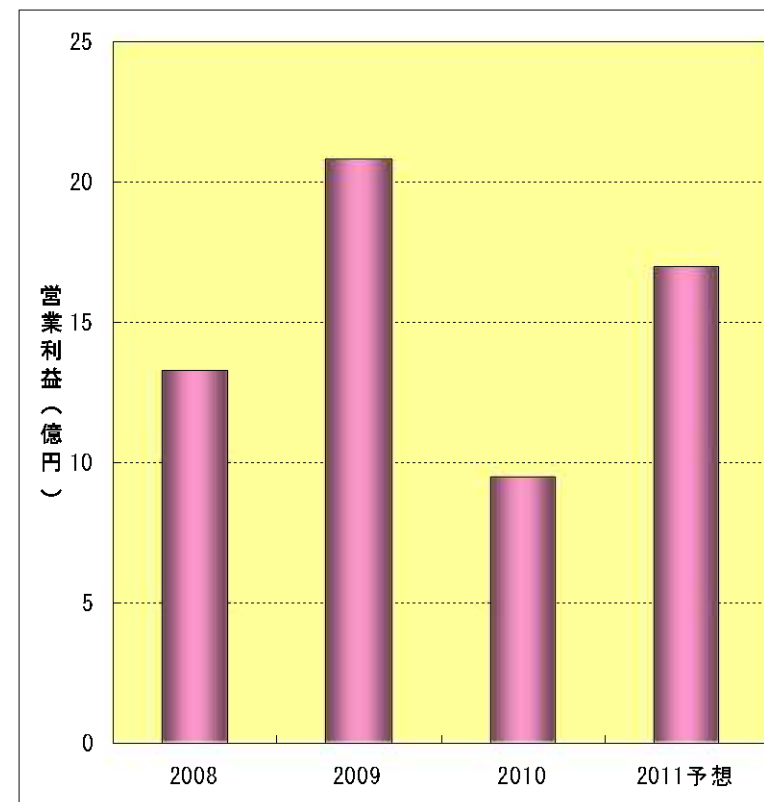
# その他事業の概要

## 食品機能素材やメディカルは堅調に推移

【その他事業売上高】



【その他事業営業利益】



2008年は旧セグメント(生活健康・その他事業)の実績値

# トップシェア・シェア優位事業

※シェアは当社推定

	製 品	シェア	主な用途等	当社の強み
		国内		
高分子	ナイロンフィルム	50%弱 (1位)	食品包装用 (世界シェア1位;25%)	同時2軸延伸技術 クイックデリバリー
	ポリエステルスパンボンド	40% (1位)	自動車内装、建築、土木、農業資材	複合繊維化技術
	綿スパンレース	50% (1位)	衛生材料、生活資材	バインダー・レス 天然素材の風合い
	ポリアリレート樹脂	当社独自	自動車部品、電気・精密機器部材	耐熱性・透明性
機能材	ガラスクロス（産業用）	30% (2位)	フィルター素材、FRP用、建築、土木資材	製織・製織技術
	ガラスビーズ	35% (2位)	各種反射材、工業用ビーズ	商品の品揃え
繊維	ポリエステル短繊維（バインダー）	60% (1位)	建材、家具、自動車内装向け不織布原料	複合繊維化技術

## 第1部 決算説明

### 1. ユニチカの事業の特徴

- ・グループ事業構成
- ・セグメント別業績の推移
- ・主要セグメントの事業内容

### 2. 中期計画「改革‘11」の進捗

- ・2010年度状況と2011年度予想
- ・構造改革と成長戦略等の進捗と事業の状況

### 3. 各事業セグメントの状況

- ・2010年度状況と2011年度予想

### 4. 今後の方向性

## 第2部 ナイロンフィルムのグローバル戦略（設備増設計画）



# 中期計画「改革'11」（2009年度よりスタート）

## 「選択」と「集中」の推進

リーマンショックの影響

需要環境の激変

収益力の低下

1. 繊維事業の構造改善と収益の建直し
2. 不採算事業の再構築
3. 成長分野への経営資源の集中
4. 財務体質の継続的改善

営業利益（億円）	2008年見込	2011年計画	増減
高分子	78	103	+25
環境・機能材	11	32	+21
繊維	▲9	32	+41
生活健康・その他	16	16	+0
消去又は全社	▲26	▲28	▲2
合計	70	155	+85

構造改善	固定費削減	①人員削減 〔150名程度削減〕 ②人件費の削減 ③固定経費の削減	2011年度 効果 +35億円
	構造改善	①ナイロン長繊維事業の撤退 ②天然繊維事業再構築 ③環境事業の再構築 ④関連不採算事業の見直し	2011年度 効果 +20億円

+

成長戦略	①フィルム事業の強化・拡大 ②高機能樹脂の強化 ③不織布事業の強化 ④産業繊維分野の強化 ・ポリエステル短繊維の強化 ・セメント補強用ビニロンの拡大 ⑤無機系機能材の強化	2011年度 効果 +30億円
------	---	-----------------------

# 中期計画「改革'11」の進捗

## 高分子を中心に増益基調で推移

(億円)

	実績	中期計画 改革'11(注3)		
	2008	2009	2010	2011
連結売上高	2,096	1,820	1,900	2,090
高分子事業	685	600	675	730
機能材・環境事業(注1)	304	170	175	185
繊維事業	906	830	830	925
生活・その他事業(注2)	200	220	220	250
連結営業利益	78	85	125	155
高分子	82	84	100	103
機能材・環境事業(注1)	19	14	20	32
繊維	▲2	7	17	32
生活・その他事業(注2)	13	9	18	16
全社・消去	▲35	▲29	▲30	▲28
連結経常利益	33	40	70	105
連結当期純利益	▲140	35	60	65

(億円)

	実績・予想		
	2009	2010	2011
連結売上高	1,822	1,807	1,785
高分子事業	609	670	690
機能材事業(注1)	155	149	155
繊維事業	775	771	770
その他(注2)	282	217	170
連結営業利益	85	105	125
高分子	89	106	106
機能材事業(注1)	15	18	20
繊維事業	▲5	8	15
その他(注2)	21	10	17
全社・消去	▲34	▲36	▲33
連結経常利益	45	61	80
連結当期純利益	30	24	35

注1:2009年度以降(実績・予想値)は、セグメント変更後の「機能材事業」で表示。

注2:2009年度以降(実績・予想値)は、セグメント変更後の「その他」で表示。

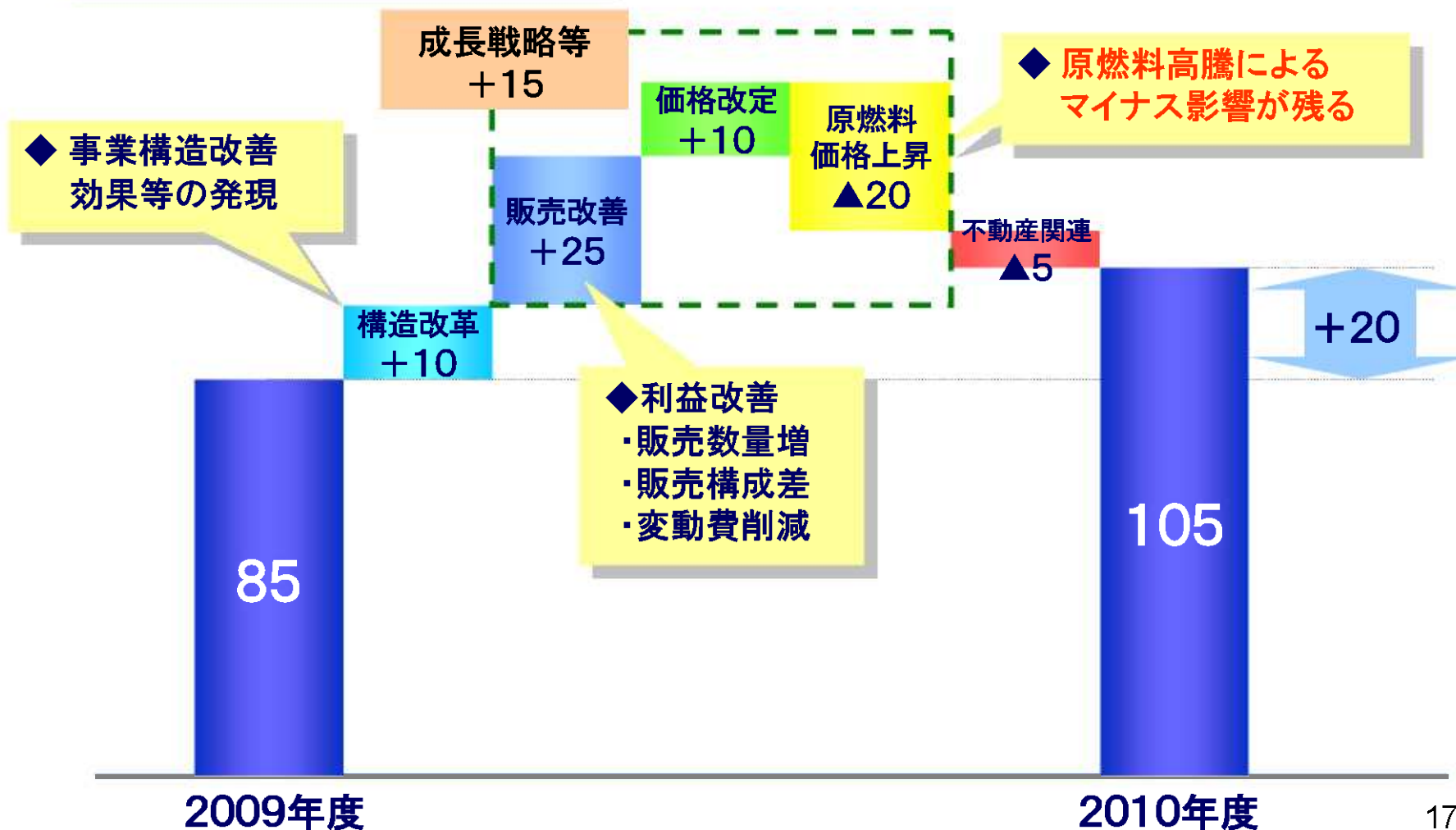
注3:「中期計画 改革'11」のセグメントは、各年度とも、当初のセグメント(「機能材・環境事業」「生活・その他事業」)の数字。

# 中期計画「改革'11」の進捗

UNITIKA

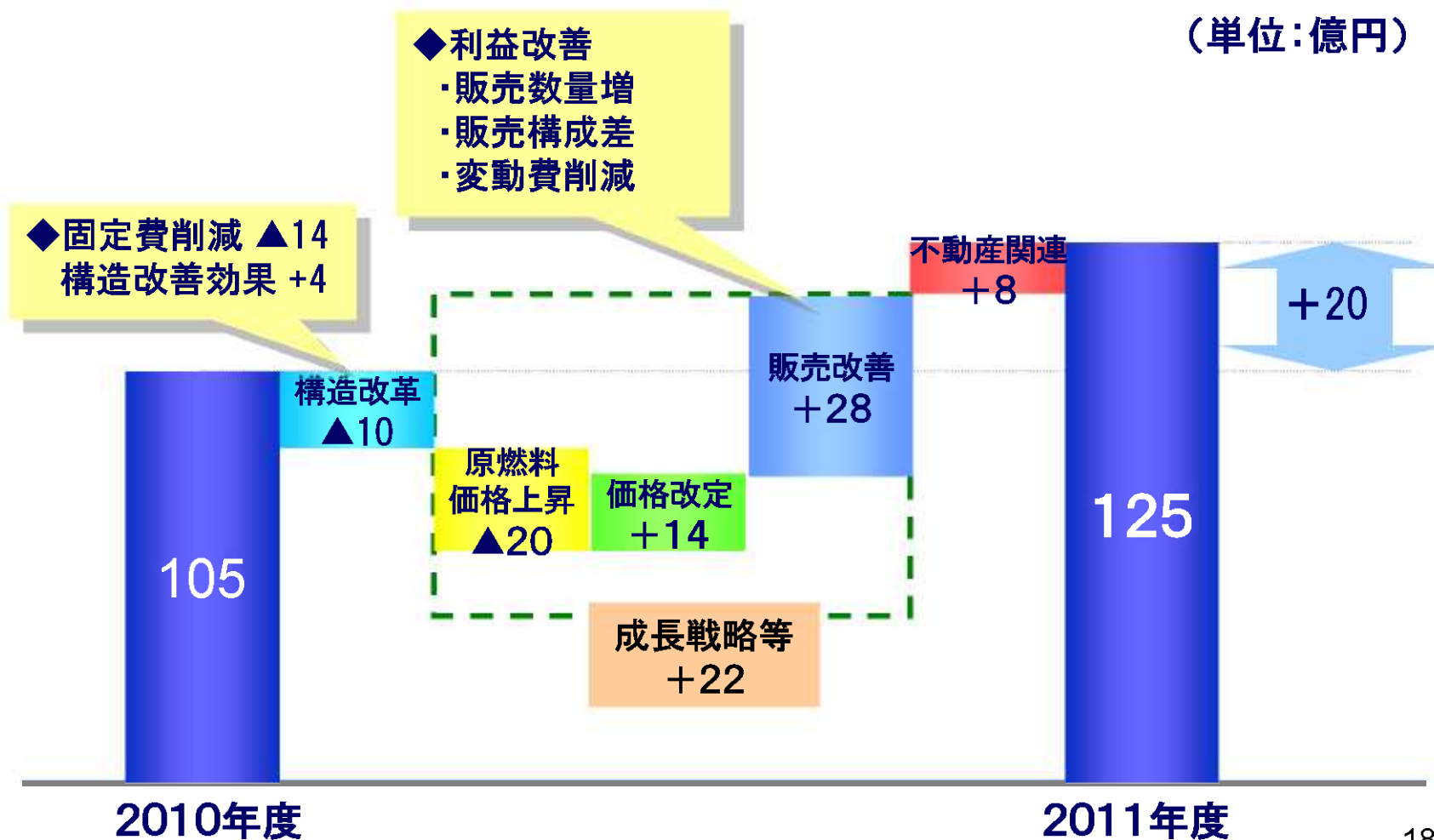
## 営業利益増減要因分析

(単位:億円)



## 営業利益増減要因分析(2011年度予想)

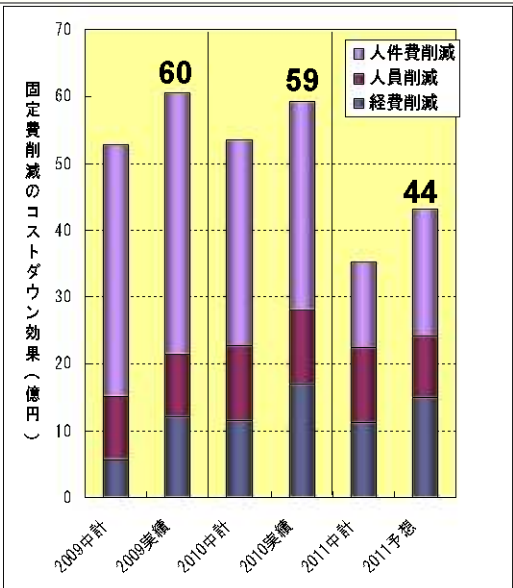
(単位:億円)



# 中期計画「改革'11」の進捗

## 構造改革の進捗

### 固定費削減施策の進捗



2008年度対比のコストダウン効果  
★追加施策で各年度の計画を上回る効果を計上

### 構造改善施策の進捗

(単位: 億円)

	2009		2010		2011	
	中計	実績	中計	実績	中計	予想
ナイロン3素材撤退	▲ 0.2	▲ 2.3	2.6	3.0	3.3	4.0
森田TX清算	2.0	1.9	2.0	2.1	2.0	2.1
天然繊維再構築	2.9	2.3	5.7	4.3	5.7	4.3
4社統合		1.3		6.1		10.6
環境構造改善	6.6	8.7	6.6	5.6	6.6	5.9
ユーアイ電子撤退	2.2	2.0	2.3	2.5	2.3	2.5
不採算分野の縮小				1.1		1.1
<b>合計</b>	<b>14</b>	<b>14</b>	<b>19</b>	<b>25</b>	<b>20</b>	<b>30</b>

2008年度対比の営業利益の改善効果  
【追加の構造改善】

- ①衣料繊維のビジネス環境の厳しさに対応する為、衣料繊維事業のコア4社の商流機能統合を実施
- ②不採算子会社の清算（Uリネン他）

(単位: 億円)

	2008	2009	2010	2011
構造改革の効果	0	74	84	74
前年度対比	0	74	10	▲ 10

構造改善と固定費削減は順調に進捗し、  
収益基盤を支える構造が確立

# 中期計画「改革'11」の進捗

## 成長戦略等(販売改善)の進捗

成長戦略	成長戦略の施策		進捗評価
	①	フィルム事業の強化・拡大	+++
	②	高機能樹脂の強化	+++
	③	不織布事業の強化	+++
	④	産業繊維分野の強化	
		・ポリエステル短繊維の強化	++
		・セメント補強用ビニロンの拡大	+
	⑤	無機系機能材の強化	
		・活性炭繊維の強化	+++
		・ガラス繊維(産業用クロス)の強化	+
	・ICクロス強化	+	

**【評価】**  
 +++: 順調に進捗している  
 ++: 進捗している  
 +: 進捗が遅れている

(億円)

成長戦略等の販売改善 (原燃料影響含む)	2010	2011	
	(2009対比)	(2009対比)	(2010対比)
高分子	+17	+22	+5
機能材	+2	+7	+5
繊維	+2	+9	+7
その他(不動産関連除く)	▲6	▲1	+5
小計	+15	+37	+22
その他(不動産関連)	▲5	+3	+8
合計	+10	+40	+30

成長戦略(事業力強化)は高分子事業で順調に進捗し、機能材事業や繊維事業(産業繊維分野)では景気低迷の影響もあり、進捗が遅れている。

成長戦略の対象分野

## 第1部 決算説明

### 1. ユニチカの事業の特徴

- ・グループ事業構成
- ・セグメント別業績の推移
- ・主要セグメントの事業内容

### 2. 中期計画「改革‘11」の進捗

- ・2010年度状況と2011年度予想
- ・構造改革と成長戦略等の進捗と事業の状況

### 3. 各事業セグメントの状況

- ・2010年度状況と2011年度予想

### 4. 今後の方向性

## 第2部 ナイロンフィルムのグローバル戦略（設備増設計画）



# 繊維セグメントの状況

(億円)

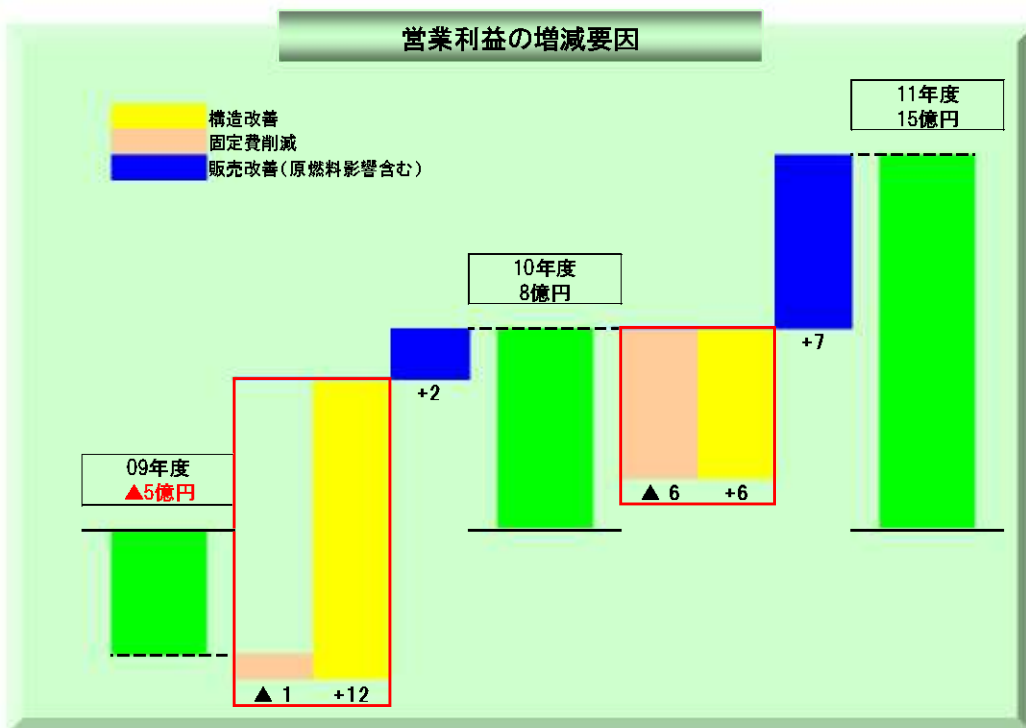
	実績			予想
	2008	2009	2010	2011
<b>連結売上高</b>	2,096	1,822	1,807	1,785
高分子事業	685	609	670	690
機能材事業	304	155	149	155
<b>繊維事業</b>	906	775	771	770
その他	200	282	217	170
<b>連結営業利益</b>	78	85	105	125
高分子	82	89	106	106
機能材事業	19	15	18	20
<b>繊維事業</b>	▲2	▲5	8	15
その他	13	21	10	17
<b>全社・消去</b>	▲35	▲34	▲36	▲33

# 繊維セグメントの状況

## 市況回復が遅れる中、構造改革により黒字確保

※ 利益変化、利益貢献度についてはP41参照

	売上高(億円)		営業利益の状況		
	2009⇒2010	2010⇒2011	2009⇒2010	2010	2010⇒2011
			利益変化	利益貢献度	利益変化
産業繊維(ビニロン繊維・ポリエステル高強力糸・ポリエステル短繊維 等)	+3	▲ 5	↗	×	↗
衣料繊維(ユニフォーム、一般・婦人衣料素材、スポーツ衣料素材 等)	▲ 7	+4	↗	×	↗



### 2010年度 黒字化

- <衣料繊維分野>
  - ◆ ユニチカトレーディングの増益(構造改善効果)
    - ・ユニフォーム、スポーツ、婦人衣料分野の荷動き堅調
  - ◆ 天然繊維分野の収益改善 (構造改善効果)
  - ◆ ナイロン長繊維撤退の効果発現(構造改善効果)
- <産業繊維分野>
  - ◆ ビニロン繊維の収益改善
    - ・生産コストダウンによる利益改善(生産量増を含む)

### 2011年度 黒字拡大

- <衣料繊維分野>
  - ◆ ユニチカトレーディングのさらなる増益
    - ・価格改定の実施
    - ・差別化商品拡充
  - ◆ 海外紡績子会社の収益改善 (国内紡績技術の移転完了、協働体制の本格化)
- <産業繊維分野>
  - ◆ ビニロン繊維の収益改善
    - ・セメント補強用途における新興国向け販売強化
  - ◆ 価格改定の実施

# 高分子セグメントの状況

(億円)

	実績			予想
	2008	2009	2010	2011
連結売上高	2,096	1,822	1,807	1,785
高分子事業	685	609	670	690
機能材事業	304	155	149	155
繊維事業	906	775	771	770
その他	200	282	217	170
連結営業利益	78	85	105	125
高分子	82	89	106	106
機能材事業	19	15	18	20
繊維事業	▲2	▲5	8	15
その他	13	21	10	17
全社・消去	▲35	▲34	▲36	▲33

# 高分子セグメントの状況

## 順調に事業力が伸長

※ 利益変化、利益貢献度についてはP41参照

	売上高(億円)		営業利益の状況		
	2009⇒2010	2010⇒2011	2009⇒2010	2010	2010⇒2011
			利益変化	利益貢献度	利益変化
フィルム(ナイロン、ポリエステル)	+30	+25	↗	○	→
樹脂(ナイロン、ポリエステル、ポリアリレート)	+20	▲ 13	↗	○	→
不織布(スパンボンド、綿スパンレース)	+11	+8	↗	○	↗

### 2010年度 増収増益

- ◆ フィルム事業における増益
  - ・ポリエステルフィルムの工業資材用途への販売増
- ◆ 樹脂事業における増益
  - ・ポリアリレート樹脂の自動車部品、電気・電子機器用途への販売増
- ◆ 不織布事業における増益
  - ・スパンボンドの農業・生活資材用途への販売増
  - ・綿スパンレースの化粧雑貨・衛生材料用途への販売増

### 2011年度 増収・増ばい

- ◆ フィルム事業における増収
  - ・ナイロンフィルムの食品包装用途での販売増
  - ・ポリエステルフィルムの生産機台改造(設備投資※)
- ◆ 不織布事業における増益
  - ・スパンボンドの海外展開の強化(海外子会社と連携)
- ◆ 各素材の価格改定

※注) ポリエステルフィルムの生産能力の改造  
販売が好調な電気・電子分野向け工業資材用途の生産能力を  
増強するために生産設備の改造を実施

# 機能材セグメントの状況

(億円)

	実績			予想
	2008	2009	2010	2011
<b>連結売上高</b>	2,096	1,822	1,807	1,785
高分子事業	685	609	670	690
<b>機能材事業</b>	<b>304</b>	<b>155</b>	<b>149</b>	<b>155</b>
繊維事業	906	775	771	770
その他	200	282	217	170
<b>連結営業利益</b>	<b>78</b>	<b>85</b>	<b>105</b>	<b>125</b>
高分子	82	89	106	106
<b>機能材事業</b>	<b>19</b>	<b>15</b>	<b>18</b>	<b>20</b>
繊維事業	▲2	▲5	8	15
その他	13	21	10	17
全社・消去	▲35	▲34	▲36	▲33

# 機能材セグメントの状況

## 2011年度も増益を予想

※ 利益変化、利益貢献度についてはP41参照

	売上高(億円)		営業利益の状況		
	2009⇒2010	2010⇒2011	2009⇒2010	2010	2010⇒2011
			利益変化	利益貢献度	利益変化
活性炭繊維関連	+1	+1	↗	○	→
ガラス繊維・ICクロス	+6	+4	↗	×	↗
ガラスビーズ関連	+5	+4	↗	△	↗
その他	▲ 18	▲ 3	→	△	↗

### 2011年度 増収・増益

- ◆ ICクロスの収益改善
  - ・ 極薄、超薄クロスの販売増  
(高付加価値品へのシフト)
  - ・ 生産部門のコストダウン
- ◆ ガラスビーズ関連の収益改善
  - ・ ガラスビーズを用いた反射材分野の収益回復

### 2010年度 減収増益

- ◆ 活性炭繊維の増益
  - ・ 廃液処理用途の活性炭繊維（吸着フィルター）の増販
- ◆ ガラス繊維の増益
  - ・ 土木・建設資材用途の需給回復による販売増
- ◆ ICクロスの減益
  - ・ 薄物・厚物クロスの競合激化による利益率の低下  
(円高影響下の輸入品との競合激化)
- ◆ 電子基板分野からの撤退による減収（約20億円）

# その他セグメントの状況

(億円)

	実績			予想
	2008	2009	2010	2011
<b>連結売上高</b>	2,096	1,822	1,807	1,785
高分子事業	685	609	670	690
機能材事業	304	155	149	155
繊維事業	906	775	771	770
<b>その他</b>	200	282	217	170
<b>連結営業利益</b>	78	85	105	125
高分子	82	89	106	106
機能材事業	19	15	18	20
繊維事業	▲2	▲5	8	15
<b>その他</b>	13	21	10	17
<b>全社・消去</b>	▲35	▲34	▲36	▲33



# その他セグメントの状況

## 2011年度は不動産部門が貢献し利益が向上

※ 利益変化・利益貢献度についてはP41参照

	売上高(億円)		営業利益の状況		
	2009⇒2010	2010⇒2011	2009⇒2010	2010	2010⇒2011
			利益変化	利益貢献度	利益変化
その他(生活健康、不動産関連、環境分析他)	▲ 66	▲ 47	↘	△	↗

### 2010年度 減収減益

- ◆ 環境事業の減収減益(事業譲渡を実施)
- ◆ 環境分析子会社の収益悪化
- ◆ 不動産関連(マンション販売)の販売減

### 2011年度 減収増益

- ◆ 環境事業の事業譲渡の減収影響は約70億円
- ◆ 不動産関連(マンション販売)の販売増
  - ・2010年度完工予定物件の完工時期ずれ分の販売
  - ・2011年度完工物件の販売
- ◆ 環境分析子会社の収益改善

## 第1部 決算説明

### 1. ユニチカの事業の特徴

- ・グループ事業構成
- ・セグメント別業績の推移
- ・主要セグメントの事業内容

### 2. 中期計画「改革‘11」の進捗

- ・2010年度状況と2011年度予想
- ・構造改革と成長戦略等の進捗と事業の状況

### 3. 各事業セグメントの状況

- ・2010年度状況と2011年度予想

### 4. 今後の方向性

## 第2部 ナイロンフィルムのグローバル戦略（設備増設計画）

# 2012年度以降の主な成長戦略

## 高分子・機能材事業を中心に成長戦略を推進

成長戦略		主な施策	収益成長 インパクト	
I	フィルム事業の戦略	ナイロンフィルムグローバルトップシェアの維持 国内・エンブレムチャイナ・エンブレムアジア連携によるトップシェアの維持。 2013年度中よりEA新機台稼働予定。	+++	
II	樹脂事業の戦略	高機能樹脂の強化 固有素材（ナノコン・ポリアリレート）の拡販とグループ会社との連携による収益力の強化。	++	
III	不織布事業の戦略	生産能力の増強による販売数量の拡大 スパンボンド事業は海外子会社タスコ、スパンレース事業は新規合併会社UMCTを活用し、販売数量を拡大。	++	
IV	無機系機能材の戦略	活性炭繊維	フィルター（液相・気相・環境分野）の拡販。	+
		ICクロス	高付加価値品（超薄物クロス等）シフトによる拡販。	+

戦略詳細については次期中期計画にて開示予定

### 【収益成長インパクト】

+++：非常に大きい  
++：大きい  
+：期待できる

# 2012年度以降の目指す姿

## 機能資材メーカーとして

### 成長戦略

- ① 「高分子事業」の強化
- ② 「機能材事業」の強化
- ③ 「産業繊維分野」の強化

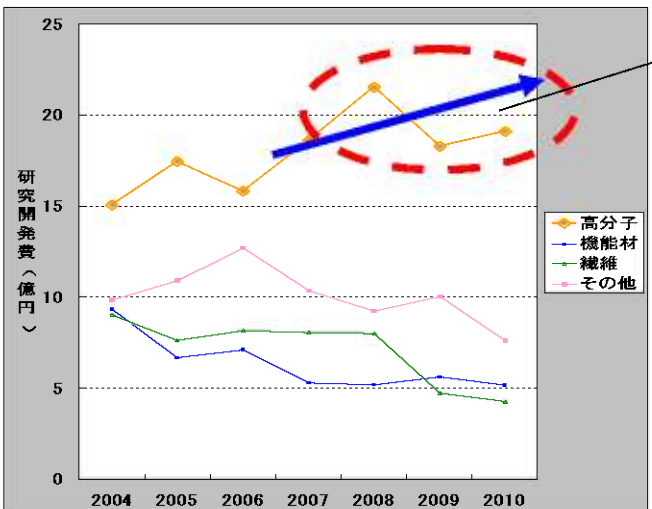
### 構造改善

- ① 「低採算分野」の見直し

「選択」と「集中」  
のさらなる推進

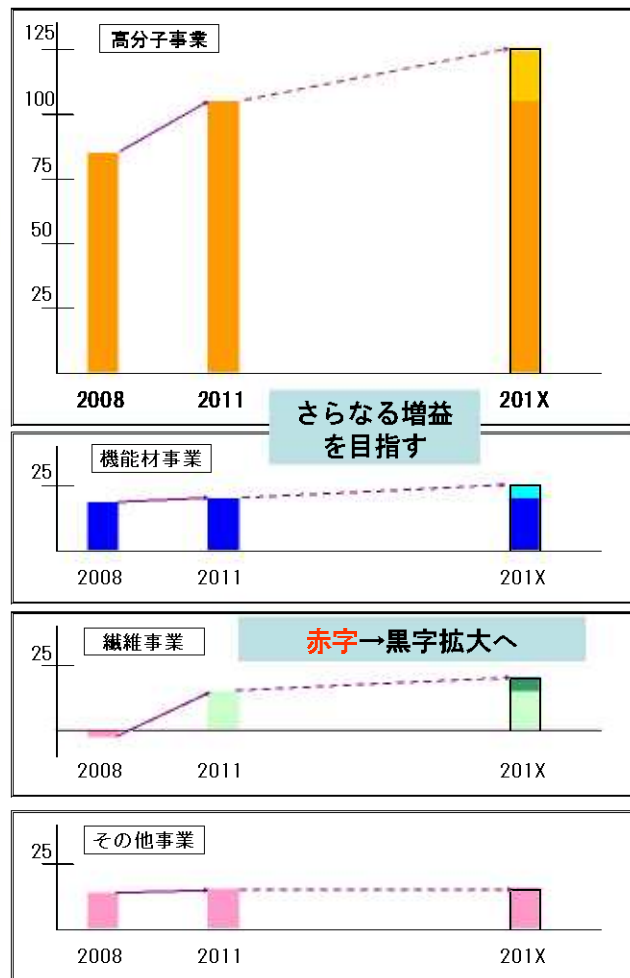


研究開発費の高分子事業への重点投入



- 新製品
- 耐熱ポリアミドフィルム
  - バイオ由来ポリ尿素
  - ポリイミドワニス
  - etc...

【営業利益（億円）の目指すイメージ】



## 第1部 決算説明

### 1. ユニチカの事業の特徴

- ・グループ事業構成
- ・セグメント別業績の推移
- ・主要セグメントの事業内容

### 2. 中期計画「改革‘11」の進捗

- ・2010年度状況と2011年度予想
- ・構造改革と成長戦略等の進捗と事業の状況

### 3. 各事業セグメントの状況

- ・2010年度状況と2011年度予想

### 4. 今後の方向性

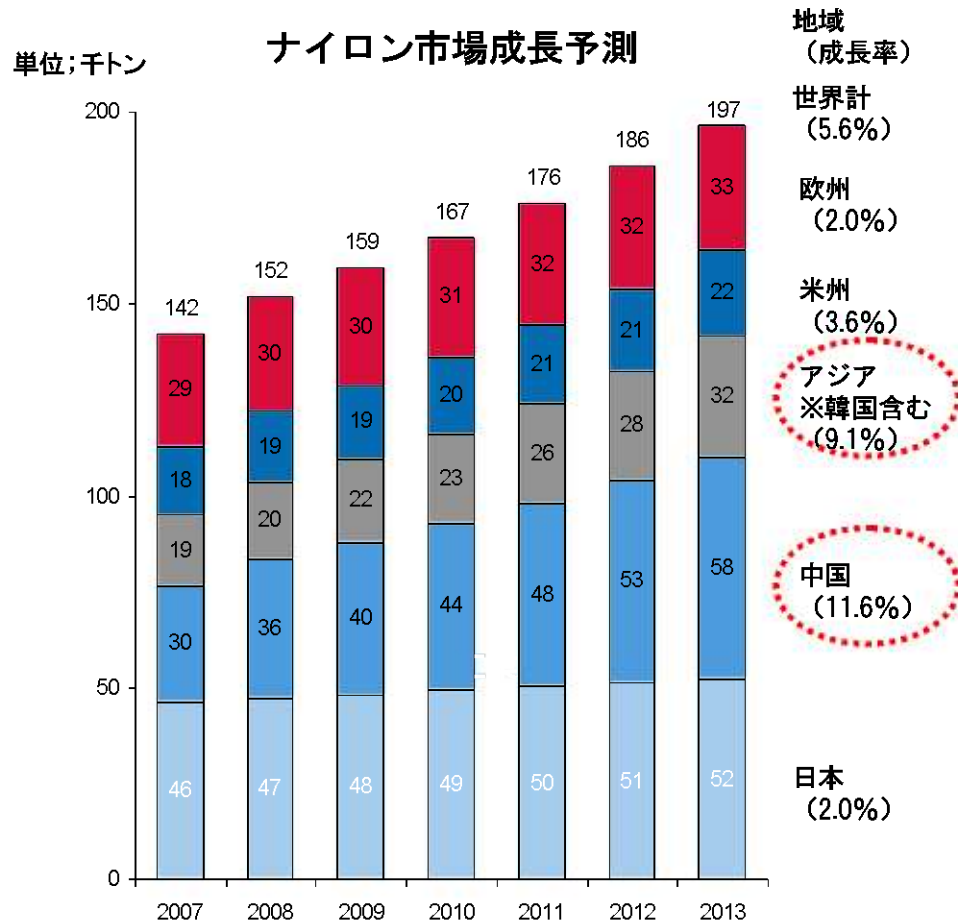
## 第2部 ナイロンフィルムのグローバル戦略（設備増設計画）

# 当社フィルム事業の背景と設備投資に向けた戦略



当社のナイロンフィルム事業	戦略
<p>1968年に他社に先駆けて事業化し国内トップシェア(50%弱)維持。</p> <p>同時二軸延伸技術による性能面での優位性のみならず、カスタマーソリューション(CS)活動やOne-dayデリバリーシステムによる顧客と強固のパイプを確立。</p> <p>成長戦略を担う基盤事業との位置づけ。</p> <p>持続的成長が期待される包装フィルム市場の中で、シェアを確保し当社ナイロンフィルムの競合優位性を拡大。</p>	<p>成長著しいアジア市場、まずインドネシアで生産能力増を図る。</p> <p>インドネシアは、アセアン域内外のFTA及び関税特惠により輸出優位ポジション。</p> <p>アジア市場域外へも販売することによりフル生産、フル販売を目指す。</p> <p>同時二軸最新鋭機の開発完了の好機を逃がさず、先発優位性の地位を確立。</p> <p>日本国内で確立したソフト戦略(CS及びデリバリー)の移植により、ハード/ソフト両面での優位性を堅持する。</p>

## 海外では包装用フィルムの成長余地が大きく、ナイロンフィルム市場もグローバルで順調に拡大



### 市場

アジア域での生活水準の向上に比例してレトルト食品、詰め替え用途の着実な需要増が見込め、環境志向の高まりから、瓶や缶から軟包装への切り替えが進んでいる。これらの用途では耐ピンホール性に優れたナイロン素材への代替が大いに期待できる。

拡大を続けるマーケットにおいて、グローバルシェアを維持し成長を続けるための布石として、エンブレムアジア（E A）に新機台を増設し、生産能力増強を図る。

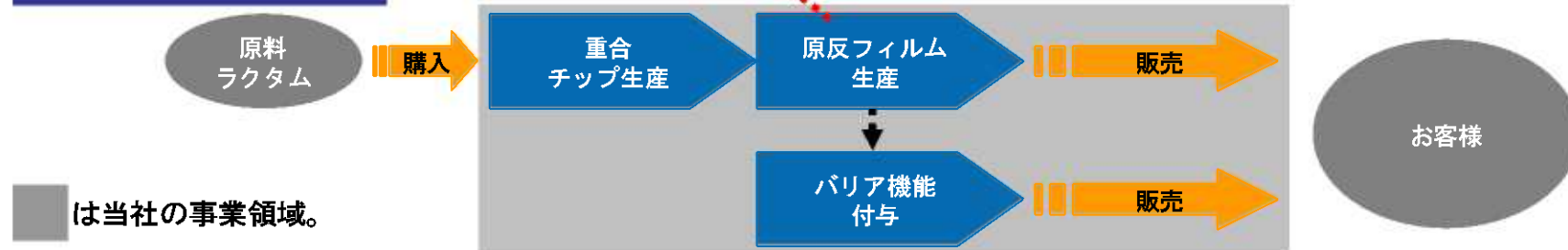
出所：Packaging Gateway, CIPAD（国際プラスチック団体理事者協議会）



## 当社独自技術で多彩なニーズに対応

	同時二軸延伸（当社）	逐次二軸延伸（他社）
特徴	吸湿寸法安定性に優れ逐次二軸延伸に比べ加工性に優れる。	横配向の強いフィルムとなる為、原反幅方向の吸湿寸法変化が大きくなり、同時二軸延伸に比べ加工性が劣る。

### ナイロンフィルムプロセスフロー

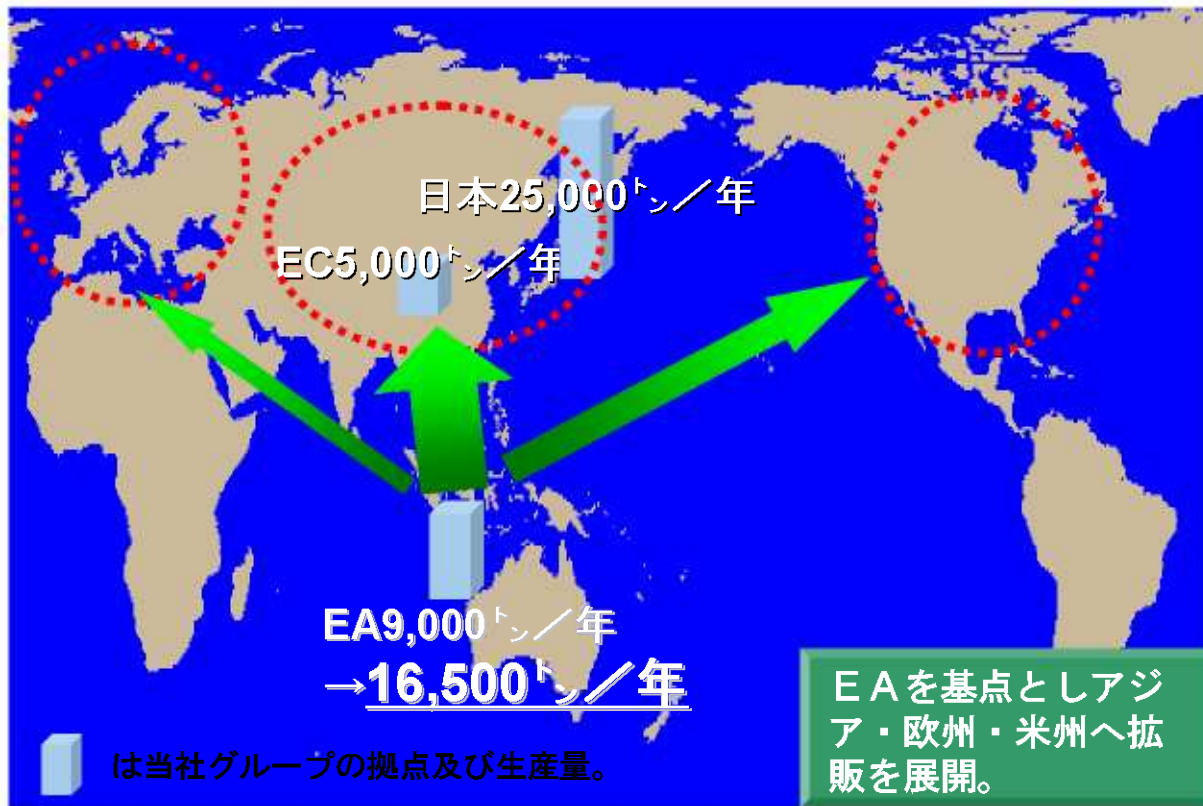


## 日本国内で確立したソフト戦略の移植

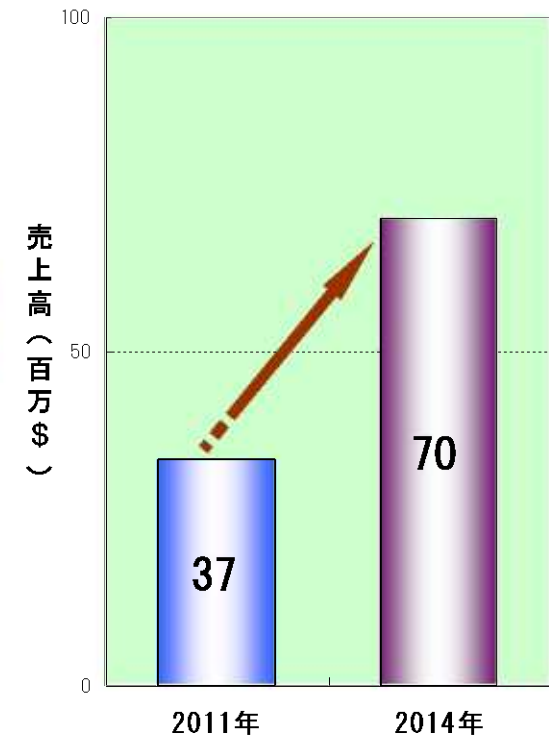
1. 国内コンバータの海外進出に連動させた国内営業によるサポート。
2. CSチームの積極的な活用。
3. デリバリーノウハウの横展開。

# 拡販展開と事業伸長ビジョン

国内・エンブレムチャイナ(EC)と連携しグローバルオペレーションを推進



EA事業伸長ビジョン



## 第1部 決算説明

1. ユニチカの事業の特徴
2. 中期計画「改革'11」の進捗
3. 各事業セグメントの状況
4. 今後の方向性

## 第2部 ナイロンフィルムのグローバル戦略（設備増設計画）

# —参考資料—

## B/Sの状況

利益により少しずつ自己資本比率が改善されている

(億円)

	2009.3	2010.3	2011.3	2012.3 (改革'11)
資産合計	2,828	2,772	2,687	-
流動資産	1,151	1,136	1,096	
固定資産	1,678	1,636	1,592	
負債合計	2,631	2,537	2,428	-
純資産合計	197	235	260	-
株主資本	176	207	235	
評価・換算差額等	▲15	▲8	▲11	
少数株主持分	36	37	36	
有利子負債	1,947	1,934	1,825	1,700
自己資本比率	5.7%	7.2%	8.3%	13.0%

## 【利益貢献(2010年度の平均営業利益率5.8%と比べて)】

平均値より2%以上利益率が高い	○
平均値の±2%範囲の利益率	△
平均値より2%以上利益率が低い	×

## 【利益変化】

10%以上増加	(前年比)	
±10%以内	(前年比)	
10%以上減少	(前年比)	

## ご注意

**本資料中の予想は、決算発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る決算発表日現在における仮定を前提としているため、実際の業績は、震災影響も含めて、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。**